国境 駒背越え 稜線 四ツ足峠

西脇へ

石立山登山口

四ツ足峠
藩政時代、別府の土居には境目番所が置かれていた。
木頭に越える峠を四ツ足峠。
珍奇な峠名の由来は、この峠に古い地蔵堂があり
床柱が高い高殿式で、四本足のように突っ立ち
二本は阿波側に、二本は土佐側に位置していた
ことから、お堂を四ツ足堂と称し
この峠を四ツ足峠と呼ばれてきた。

別府

大栃へ

国道195号線

別府へ

石立山へ

四ツ足峠(1030m)
四ツ足堂

日和田へ

石立山登山口

国境の四ツ足峠越えは険路である。
無事に峠を越えることは神仏の庇護
によるものであると考えていた。
今の交通安全を願い、山の神に祈願
をする土・阿両国の里人は、峠を
聖なる地として堂を建立した。

人工林
ダバ

四ツ足トンネル中央の県境地点側壁に
「四ツ足地蔵」が祀られている。

谷境

養老年間(717~724)
に整備された官道
を養老官道として
四ツ足峠説と野根山
街道説がある。

四ツ足峠の北方には「石立山」(1707m)が
そびえ南方には「行者山」(1348m)へ
稜線が続く。
この両山を結ぶ鞍部が四ツ足峠。
四ツ足峠の古名は「僧土山峯の峠」。
養老年間(717~724年)に中央と
地方を結ぶ経路として、那賀川に
そって土佐国境に至り、物部川に
平行して土佐国府のあった南国市
に至る官道であったと考えられている。

人工林

石立山頂には石立神社、石立大明神
と伝わる祠があり、昔は石立教神会
と称する宗教団体があって例祭
が行なわれていたともいう。
(石立山の西側には「捨身ノ嶽」という
行場もある。山頂の祠は大山祇命
役の行者を祀る。)
行者山も名前のとおり、山伏修業
を行う行者と深いかかわりがある
ことだろう。
「木皮山(ほきやま)風土記」には、石立山
は聖(ひじり)の山であり、修験者
以外の入山が禁止されていたこと
が記されている。
修験者にとって最高の霊山と
される石立山を含めたこの一帯の
尾根を修業する山伏がさかん
に行き来していたことだろう。
そして四ツ足堂も山岳鎮護の
祈堂として、あるいは石立山修験
の遥拝所として山岳宗教に
とって重要な存在であった。

行者山国有林

天然林

ヤセ尾根

丸い山容の行者山

千本谷林道へ

物部川と那賀川との分水嶺。
どちら側に降るかで水の行き
先が変わる。
分水嶺を歩く時、これまで自分が
越えてきた人生の分水嶺を
思い浮かべたりする。

池

池

1326m

行者山
1346m

行者の広場

真北に石立山
南に赤城尾山
360°山々を眺望
(三角点なし)

国有林の境界線が
目印となる。

サイニヨウ国有林

ゆるやか

小ピーク

赤城尾山真正面

参考文献
「土佐の峠風土記」

修験者がこの尾根を
歩いていた時代と
いうのは、人がみな
神仏を信じることが
できた時代だったこと
だろう。
険しい山道を歩くことで
御仏が身近にいる
ことを実感したことだろう。

ヒメシロウの
若い林

30年くらい前、祖谷で
ツキノワグマが捕獲された。
動物園かどこかへ輸送する
ため、クマオリに丸太をさし込
んだら大暴れして丸太折を
くいやぶるほどだった。
近くでそれを見ていた
おばちゃんが、とっさに持っていた
カンロ飴を投げ入れたところ
クマはよろこんで、カンロ飴を
カリカリと食べておとなしく
なって、どこかへ運ばれたという。
(当時、祖谷治山事業所に
勤務していたKさん談)

危険

岩場の
やせ尾根

ナイフエッジ
細心の注意が必要

赤城尾山
(あかぎお・あかぎゅう)

1436m

ブナ広場

おだやかな
広葉樹林の
斜面が美しい。

やや急

鞍部

石立山(1707m)より南へのびる
土阿国境稜線は西又山~
甚吉森~湯桶丸へと続くが
この赤城尾山を越える山はない。
深い谷から立ち上がる堂々たる山容。

この稜線はとても奥深く
大変険しい山域である。
ツキノワグマとの遭遇や道
迷い、滑落など遭難の危険
が非常に高いといえます。
決してあなどることなく
万全の安全対策と備えを
必要とするコースです。

山での一日を振り
返って、笑顔になれる
山行だったらいい
なあ。
安全登山でありますように。

杉ノ熊山国有林

ツキノワグマ足跡
(2017.11.3)

大崩壊

甚吉森よく見える

クマに聞いた
わけではない
けれど、甘い
カンロ飴が
好物らしい。

美しい高齢級の
天然林が広がる

徳島県側
人工林

距離表

駒背トンネル~尾根	約1km
~赤城尾山	3.5km
~行者山	5.5km
~四ツ足峠	8.0km

シカのお尻は白い
シカに聞いたわけではないけれど
シカは夜行性なので夜の山中で
仲間を追いかけやすいから
白いお尻が目印になっている
らしい。

南下ではこの尾根に
とまどう。
慎重に。

(注)

光合成の役目を終えた葉っぱは
お迎えの風が吹くと、ほんの
一瞬だけ自由に空を舞う
ことができる。
次の春には養分として新しい命
になることを知っているのか、
とてもいきいきと、愛しく見える。

駒背山
1306m

崩壊地

R195号へ

尾根に出るとすぐ右折。北へ。

ブナ天然林

ザレ

下っていると徳島側への
歩道にのるので注意。

那賀町看板
「なかは
なかなか
いいなか」

久々場山へ

急坂

人工林

徳島側歩道あり

久々場山へ

鞍部

駒背山登山口へ

トンネル脇から入って
1つ目の尾根を
直登

高ノ河・西又山へ